

平成31年度（2019年度） 公益財団法人びわ湖芸術文化財団事業計画

I 事業方針

滋賀県域全体の文化振興施策を総合的に推進する「公益財団法人びわ湖芸術文化財団」として3年目となる2019年度においては、滋賀県から受託している第3期指定管理（5年間）の4年目として、中期経営計画に基づき、滋賀県文化振興基本方針（第2次）の基本目標「滋賀の文化力を高め、発信することで地域が元気になっていく姿」を実現するため、県立文化ホール2館体制のもと、びわ湖ホールを本県の舞台芸術の中心的な施設として、優れた舞台芸術を国内外に発信するとともに、地域に根ざした文化芸術活動を支援する文化産業交流会館と地域創造部が有機的に連携し、市町ホール等と協働しながら、県民の皆様誰もが文化芸術を身近に触れられる多彩な事業を展開する。

1 法人本部

法人本部では、法人全体の総務・経理事務を行うとともに、県内の文化ホール、文化活動者・文化団体、学校、企業や地域等とのネットワークを充実し、協働連携のもと、県民の皆様が身近に文化芸術に触れる機会を提供する。

「近江の春 びわ湖クラシック音楽祭」では、びわ湖ホールを拠点に県内の市町ホール等でも公演を開催する。また、小中学校等へのアウトリーチ活動では、びわ湖ホールおよび文化産業交流会館と連携し、より多くの児童生徒に鑑賞・体験の機会を提供する。

県民の皆様の創作活動の発表や鑑賞の場、文化情報の提供等を通じて、誰もが文化芸術に親しめる環境整備に努めるとともに、「東京2020オリンピック・パラリンピック」終了後も見据え、本県出身の若手アーティスト育成事業、滋賀の魅力を発信する事業等を展開し、文化で元気な滋賀の実現を目指す。

2 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

びわ湖ホールは、開館20周年の節目を経て、2019年度は次の10年を見通し、その第一歩を踏み出す年となる。

これまでの実績を踏まえ、びわ湖ホールでは、我が国の舞台芸術の水準の向上に貢献していくため「トップレベルの劇場を目指す」という視点と、誰もが気軽に訪れることができる「親しみやすい劇場を目指す」という双方の視点に立ち、バランス良く自主事業を展開することにより、国際的水準の舞台芸術を最高の鑑賞条件で提供するとともに、誰もが舞台芸術の楽しみを味わい、繰り返し来場いただけることを目指す。

また、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、国内における舞台芸術活動の機運も一層高まってきており、びわ湖ホールのさらなる発展が遂げられるよう、関係機関とこれまで以上に連携調整を図りながら、事業を進める。

さらに、公益財団法人のメリットを最大限に生かし、びわ湖ホール舞台芸術基金への寄付や企業からの協賛・オフィシャルスポンサー・ネーミングライツの獲得等に努めるとともに、県民の皆様の視点に立った広報の推進や地域の団体・企業との連携を進める。

また、県や関係機関と協働して、次代を担う子どもたちが質の高い舞台芸術を体験す

る学校鑑賞公演を拡充するとともに、舞台芸術基金を活用し寄付者の想いを実現するための事業にも取り組む。

これらの諸活動を通じ、事業を戦略的・計画的に展開し、健全な劇場運営、安全な施設管理に努める。

なお、2019年度においては、舞台機構の改修により大・中ホールが利用休止（2019年8月19日～12月20日）となるため、自主事業の日程を改修期間外で調整するほか、利用休止を奇貨とし、利用できる小ホールやメインロビーでの公演や、地域連携公演などのアウトリーチ事業を増やすなど、新たな客層の開拓に努める。

3 滋賀県立文化産業交流会館

2019年度は、開館31年目を迎え、気持ちも新たに開館40周年に向けたスタートの年として、県北部の拠点施設としての特性を生かした魅力ある事業を推進するとともに、安全・安心な会館運営を行う。

特に2020年に迫った東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、日本の伝統芸能にも、これまで以上に注目が集まっており、その継承・発展に重点を置いた事業を展開する。

イベントホールでは、引き続き、多目的な機能を活用し、滋賀をテーマとした邦楽・邦舞の公演制作「長栄座」事業や誰もが気軽に楽しめる鑑賞公演を開催する。また、次代を担う子どもたちによる演劇公演、県民の企画提案による協働事業、学校現場で子どもたちに文化芸術に触れる感動や楽しさを伝える普及啓発事業、邦楽・邦舞の実演家養成やアートマネジメントの人材養成事業を展開する。

さらに、産業分野との連携により、起業を目指す方々の情報交換会や伝統産業展等を実施する。

また、各種事業への国、公益法人、民間等の補助金や文化基金の獲得とともに、イベントホールでの産業フェアや展示会等、様々な利用を促進することで施設稼働率向上に努め、収入割合の向上を図る。

II 事業計画の概要

1 法人本部

(1) 自主事業

本県出身のアーティストを育成・発掘する事業を展開するとともに、県内文化ホールとの文化芸術事業等の情報共有や事業企画等のスキルアップを図り、協働連携しながら、県民の皆様誰もが身近に文化芸術に触れる機会を提供する。

ア. 人材養成

本県の若手演奏家の育成や発掘を行うため「滋賀県ピアノコンクール」「湖国新進アーティストによる演奏会」を開催するとともに、出身演奏家の出演機会を設け、活躍の場を拓げる。また、小中学生の感性を育て、作品発表の機会を作る「種をまくプロジェクト 2019 びわ湖・滋賀の風景展」（公募展）を開催する。

新規事業として、県内で地域に根ざした文化芸術活動を行う方々のネットワークづくりを目的に、トークセッション「びわ湖芸術文化茶論（サロン）」を実施する。

イ. 普及啓発

「近江の春 びわ湖クラシック音楽祭」を市町ホール等と連携し、県内各地で開催される音楽祭となるように推進を図る。

また、びわ湖ホールおよび文化産業交流会館と連携し、学校、文化ホールをはじめ、医療・福祉施設において、文化芸術に親しんでいただく機会を提供する。

ウ. 協働連携

県内の文化ホールをはじめ、文化活動者・文化団体と協働連携し、県域でのネットワークの構築や、文化ホールが地域の文化活動拠点として活性化することを目的に「アートコラボレーション事業」に取り組む。

また、新規事業として、滋賀県文化賞（文化奨励賞、次世代文化賞含む）受賞者によるコンサートや、滋賀をテーマに狂言の創作に取り組んで10年目を迎える「おうみ狂言図鑑」を市町ホール等との協働により制作・上演する。

さらに、県内の企業社屋等を会場に、文化・経済フォーラム滋賀と共催で「文化・経済アートステージ」を開催するほか、文化団体等と協働して地域のアート活動を支え、地域の活性化を目指す「アート活動支援事業」を実施する。

エ. 情報提供

地域の方々に大切に守り育まれてきた文化、自然との共生により生活に根付いた文化、新たに創造された多様な芸術など、本県の魅力ある文化資産等をウェブサイトにより発信する滋賀県のサイト「滋賀文化のススメ」の管理運営を行う。

(2) 受託事業

ア. 滋賀県芸術文化祭

滋賀県芸術文化祭実行委員会を組織し事務局運営を担い、県民の皆様の文化芸術創作活動における発表の場として、美術、写真、文芸の3つの公募展を開催し、作品を身近に鑑賞できる機会を提供する。また、芸術文化祭の開催時期にあわせて、県内の文化団体等の活動紹介や親子で体験できるワークショップを実施する。

イ. 県内文化情報提供事業

(ア) 湖国文化情報 『れいかる』 編集・発行

県内各地の文化施設で行われる各種文化活動を紹介する湖国文化情報『れいかる』を編集・発行し、県民の皆様への情報提供を通して、文化活動の一層の活性化を図る。

(イ) 総合文化誌 『湖国と文化』 提供

当財団が編集・発行する総合文化誌『湖国と文化』を県内外の図書館や教育機関等へ配本し、滋賀の文化の魅力を発信する。

ウ. 文化プログラムフェスティバル事業

滋賀の文化を担う若手芸術家等の発表の機会を設けるとともに、滋賀の特色ある

文化プログラムを県内外に発信する機運を醸成するため、「びわ湖☆アートフェスティバル」を開催する。

エ. 「美の滋賀」拠点形成フェア開催事業

親子で気軽に体験できるワークショップなどのプログラムを集めた「アートフェスティバル」を県内地域で実施する。

(3) 独自事業

ア. 総合文化誌『湖国と文化』の編集・発行

季刊誌『湖国と文化』を編集・発行し、本県の歴史、風土、自然、文化芸術など、滋賀の多彩な魅力を県内外に発信する。

イ. 文化・経済フォーラム滋賀

文化団体、芸術家、企業、学術、行政等、多様な分野で活躍する者で組織するフォーラムの事務局運営を担い、各分野を超えた交流や「文化で滋賀を元気に！」する事業を推進し、本県の文化と経済の連携や活性化を目指す。

(4) 広報

びわ湖ホールや文化産業交流会館と連携を図りながら、各種事業チラシの配布をはじめ、ホームページによる広報やチケット販売等を行う。また、びわ湖ホールの広報ネットワークを活用し、新聞社や放送局への効果的なプレスリリースに努める。

チケット販売について、当財団ホームページ上の独自のチケット販売システムを活用し、「アートコラボレーション事業」等、県内の文化ホールと協働で展開する事業についても取り扱い、便宜を図る。

2 びわ湖ホール

(1) 自主事業

ア. 2019年度自主事業

びわ湖ホールがこれまで培ってきたノウハウを生かし、2019年度も引き続き、自主制作による創造活動を基礎にしながら、県民の皆様をはじめ多くの方々に国際的水準の舞台芸術を最高の鑑賞条件で提供するとともに、誰もが舞台芸術の楽しみを味わい、繰り返し来場いただけることを目指す。

具体的には、びわ湖ホール声楽アンサンブルを核とした創造活動をはじめ、歌劇、音楽、演劇、舞踊等の多彩なジャンルにわたって、質が高く特色ある事業を実施するほか、人材の育成に努めるとともに、アウトリーチ等により、舞台芸術を広く県民の皆様にお届けする活動に取り組む。

また、春や秋の音楽祭をはじめ、フェスティバル事業等を開催することで、地域の賑わいの創出および経済の活性化に貢献し、幅広い方々から親しみをもってもらえる事業を展開する。

(ア) オペラ

日本最高水準の力を結集して上演する「プロデュースオペラ」や、沼尻竜典芸術監督が優れた作品を厳選して上演する「沼尻竜典オペラセレクション」、青少年や初心者のための入門的役割を果たす「オペラへの招待」で優れた作品を上演する。

- ・プロデュースオペラは、ワーグナーの「ニーベルングの指環」(四部作)の四作目『神々の黄昏』を上演。一作目の『ラインの黄金』が第25回三菱UFJ信託音楽賞を受賞し、また、これまでの公演すべてがチケット完売となるなど大きな盛り上がりを見せており、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催の年にいよいよ完結を迎える。
- ・「沼尻竜典オペラセレクション」は、「近江の春 びわ湖クラシック音楽祭」の中で生誕120周年となるプーランク作曲 歌劇『声』を取り上げる。
- ・前述のとおり2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックに向けて、新国立劇場と東京文化会館が制作するオペラ夏の祭典2019-20 Japan⇄Tokyo⇄World『トゥーランドット』(東京2020公認プログラム)を上演する。
- ・「オペラへの招待」シリーズは、「オペラをこれから観てみたい」という方に向けた入門編として、びわ湖ホール声楽アンサンブル・メンバーが主要なキャストを務め、J.シュトラウスⅡ世作曲オペラ『こうもり』を、公演数を例年の2公演から4公演に増やして上演する。
- ・共催事業として、8年ぶりの来日となるボローニャ歌劇場によるヴェルディ作曲『リゴレット』を上演する。

(イ) オーケストラ

- ・年末年始を素敵な音楽で迎えるカウントダウンコンサートとして、すっかり定着している「ジルヴェスター・コンサート」を、オペラやミュージカルの演出家として素晴らしい活躍を見せる田尾下 哲を演出に起用して上演する。
- ・青少年・初心者向けのコンサートとして定評のある「子どものための管弦楽教室」を引き続き開催するほか、誰もが知る有名な交響曲や協奏曲をオーケストラの演奏でお楽しみいただく「名曲コンサート」を日本センチュリー交響楽団により開催する。
- ・共催事業では、関西フィルハーモニー管弦楽団の公演を新たに加え、日本センチュリー交響楽団のびわ湖定期公演 vol. 12やKEIBUN第九等を実施する。

(ウ) 室内楽等

- ・「びわ湖の午後」シリーズは、上質な音楽を小ホールという親密な空間でお楽しみいただくというコンセプトで、どなたでも贅沢なひと時を過ごしていただけるリサイタルを開催する。
- ・「気軽にクラシック」は、2017年度からチケット価格を抑え、公演時間も1時間程度と短く設定し、より気軽にお楽しみいただけるようリニューアルして好評を得ており、公演数を2公演から4公演に増やして実施する。
- ・室内楽の魅力を伝える「室内楽への招待」、中世・ルネッサンスやバロックといった古楽の世界を紹介する「古楽への招待」のほか、様々なジャンルの音楽を楽しん

でいただく「大人の楽しみ方」など、幅広いニーズに合わせた多彩な公演を、年間を通して行う。

- ・開館15周年の節目に若杉弘初代芸術監督から寄贈されたピアノ（自宅で愛用していたピアノ〔スタインウェイ ハンブルクモデル1978年製〕愛称“ピノ”）を活用する「スタインウェイ“ピノ”シリーズ」も継続して実施する。

(エ) バレエ・ダンス

- ・世界のトップ・プリマ、アリーナ・コジョカルと強力な仲間たちによる、古典の名作から話題の現代作品まで、ドリームチームによるガラ公演を上演する。
- ・ロシアを代表するモダン・バレエ振付家ボリス・エイフマン率いる精鋭集団の21年ぶりとなる来日公演として、代表作『アンナ・カレーニナ』を上演する。
- ・新国立劇場との連携公演として、世代を超えて様々なお客様の感性を刺激する作品作りに定評のある森山開次が新制作する、大人も子どもも楽しめるダンス作品「N I N J A」を上演する。
- ・世界的な活動を続ける舞踏カンパニー山海塾の2019年世界初演の新作を上演する。

(オ) 演劇・古典芸能

- ・現代の私たちが直面する問題を鋭く提示し、圧倒的な支持を誇る作・演出家、永井愛の率いる二兎社の新作『私たちは何も知らない』を上演する。
- ・大人も楽しめるという好評をいただいている「子供のためのシェイクスピア・シリーズ」は、新制作『じゃじゃ馬ならし』を上演する。
- ・古典芸能では、毎年好評の野村万作・野村萬斎狂言公演や、松竹大歌舞伎 二代目松本白鸚、十代目松本幸四郎襲名披露公演を実施する。

(カ) フェスティバル等

- ・地元企業や団体と連携し、年間を通じて、地域を巻き込む音楽祭やフェスティバルを開催することで、地域の賑わいの創出および経済の活性化に努める。
- ・2018年度に初開催の沼尻竜典芸術監督プロデュース、「近江の春 びわ湖クラシック音楽祭」を引き続き開催する。4・5月を開催期間とし、県内各地域で開催される音楽関連の催しと連携して音楽祭を盛り上げ、地域の活性化にもつなげる。4月27日、28日には、びわ湖ホール開催として、優れた音楽家の演奏を低料金で提供するほか、アマチュアの演奏等による無料公演や野外での「かがり火コンサート」などにより、「近江の春」を音楽で彩る。
- ・秋にはびわ湖大津秋の音楽祭運営協議会のメンバーとして、地元企業・団体と連携・協力しながら、「びわ湖大津 秋の音楽祭」を開催し、さまざまなジャンルの文化芸術やイベントをまちなかで繰り広げる。

(キ) 普及事業

- ・県や教育委員会と連携し、次代を担う青少年が本物の舞台芸術に触れられる機会を提供するため、「びわ湖ホール 音楽会へ出かけよう！」（学校鑑賞公演：ホール

の子事業)を、引き続き6日間計12公演開催するほか、アウトリーチとして「学校巡回公演」や「ふれあい音楽教室」を学校等で実施する。

- ・劇場に訪れにくい方にも舞台芸術に触れられる機会を提供するため、医療・福祉施設における「ホスピタルコンサート」などを実施する。
- ・入場料無料のロビーコンサートでは、七夕やハロウィン、クリスマスといった季節にちなんだ公演や滋賀県ゆかりの若手演奏家による公演を開催する。このほか、大・中ホールの利用休止期間には大幅に回数を増やして実施し、その中で県民提案型のロビーコンサートの実施も検討する。
- ・オペラ講座、トライアングル講座、公演に関連したワークショップ、セミナーなどを開催し、舞台芸術の普及・振興に努める。
- ・一般公募により選ばれた出演者によるコンサート「アンサンブルの楽しみ」を継続して開催する。2019年度は11回目を迎える。
- ・大・中ホールの利用休止期間中に地域協働公演として県内ホールにおいて、オペラ『泣いた赤鬼』を上演するほか、学校公演として、学校等でも同演目を上演する。また、びわ湖ホール声楽アンサンブルが実演団体として、文化庁の委託を受けて、全国の小学校・中学校等において、子ども向けオペラ『泣いた赤鬼』巡回公演を行う。
このほか、びわ湖ホール声楽アンサンブルが県内各地で公演を行い、大人も子どもも合唱等を通じて参加できる機会を設け、オペラを聴くだけでなく、ともに創り上げていく様々な企画を展開し、舞台芸術の振興を図る。
- ・公益財団法人への移行を機に、2011年度には「びわ湖ホール舞台芸術基金」を設け、優遇税制が受けられる寄付の受入れを積極的に行い、声楽アンサンブル公演やオペラ公演などに基金の一部を活用している。今後もご寄付をいただいた皆様のお志を生かした事業を展開する。
- ・2015度には、初代芸術監督である故若杉弘氏夫人の故長野羊奈子氏からの遺贈を受け「若杉・長野音楽基金」を設けた。「次世代の音楽家を育成して欲しい」というお二人の思いを形にするため、「沼尻竜典オペラ指揮者セミナー」や「イタリア声楽曲研修」に同基金を充てて実施する。

イ. 次年度以降自主事業準備

2021年度以降の自主事業実施に向けて、公演調査や事前交渉を行うとともに、2020年度に開催する自主事業公演の事前準備を実施する。

ウ. 専属声楽アンサンブル運営

びわ湖ホールの創造活動の核として設置している「びわ湖ホール声楽アンサンブル」については、定期公演をはじめ、「オペラへの招待」などの自主制作オペラ公演、小学校へ出向いての「学校巡回公演」や「ふれあい音楽教室」、県内各地域の文化ホールと連携して実施する「地域協働公演」、県内の小学校の児童を対象にしたオーケストラ公演「びわ湖ホール音楽会へ出かけよう！」などの自主事業への出演を中心とした活動を展開し、子どもたちをはじめ、県民が舞台芸術に触れる機会を創出する。

さらに、依頼公演についても積極的に取り組むなど、県内外で幅広い活動を展開する。

エ. ネットワークの形成

県の公立文化施設協議会の会長館として、県内公立文化施設のネットワーク形成と職員の能力向上のため、引き続き館長会議およびびわ湖舞台芸術スタッフセミナーとしてアートマネジメント研修等を実施する。

(2) 広報マーケティング活動等

情報発信とチケットの販売促進を図るため、多様なパブリシティ活動、情報誌の発行、新聞・雑誌・電波・交通等による広告、Webサイト・SNS・メールマガジン等インターネットを使用した幅広いPR活動を行うほか、協賛支援の確保や貸館についての営業活動を展開するとともに、地域のつながりや、劇場サポーター、シアターメイツをはじめとした人と人とのネットワークを生かした広報活動を行う。

また、びわ湖ホール舞台芸術基金の周知に努め、幅広く寄付を呼びかける。

ア. 広報営業活動

舞台芸術情報誌「湖響」(年4回)の充実を図り、公演チケット情報誌「Stage」(毎月)を発行するとともに、新聞、雑誌、電波、Webサイト、SNS、交通広告等による公演情報の発信に努める。また、想定される購買層やチケットの販売状況を勘案しながら、Web上のツールも効果的に駆使、反響を確かめつつ広報を行う。

さらに、オフィシャルスポンサー制度をはじめとする企業団体等の協賛制度の周知・利用を積極的に進めるとともに、びわ湖ホールのファンを増やし、チケット販売、友の会会員、寄付者等の増加につなげるために、地域の企業、経済団体、関係施設・団体等との交流を深めるとともに、各会員との良好な関係継続に努める。

イ. チケット販売

友の会会員への優先発売や委託販売先PR誌との連携を行うとともに、組織販売やこれまで蓄積した顧客リスト、アンケート結果の整理・分析を進めることで、チケットの効果的な販売活動につなげ、顧客の拡大に努める。また、オペラ公演等のネット販売において英語ページを試行的に公開し、海外誘客にも取り組んでいく。

さらに、オペラ2公演セット券の販売等企画商品の開発や旅行会社・ホテル・百貨店等とのタイアップ企画等を通じた販売にも積極的に取り組む。

ウ. ホームページの運用

ホームページをより一層見やすく、常に最新の情報を提供することにより顧客の利便性の向上を図り、チケットの購入に結びつくよう工夫する。また、SNSを活用し身近な情報を頻繁に発信することで、各公演への関心が高まるように努める。

また、動画や音声データを閲覧できるようにし、音楽プログラムのイメージが伝わりやすい仕掛けづくりに努めるなど、Webページの閲覧が購買行動に結びつき易くなる工夫を凝らす。

エ. 友の会運営

顧客の拡大・定着、チケット販売等の営業活動の促進、購入データの分析を行い、販売促進に努めるとともに、支援者の拡大の手法（ポイント制等）についての検討を行う。

また、友の会料金等の会員特典の設定やアンケートの実施により、会員サービスの向上とチケット販売促進を図る。

さらに、インターネット上での各種手続きや会費納入の口座振替等多様なニーズへの対応により、友の会会員の満足度や利便性の向上に努める。

オ. 人と人とのネットワークづくり

(ア) 劇場サポーター運営

人のネットワークによる観客創造を目的とした「劇場サポーター」制度について、第22期から第24期までの劇場サポーターを中心に研修や交流会を実施するなど充実した運営を行い、舞台芸術の普及を図るとともに、サポーターとホールとの関係強化に努める。

(イ) シアターメイツ

青少年の舞台芸術への関心を高め、観客層の裾野を広げるため、引き続き「シアターメイツ」会員を募集し、対象公演のチケットの割引販売、稽古等の見学会を実施する。

また、シアターメイツ特別顧問キャラクター「にゃんばら先生」を活用したPR活動を行う。

(ウ) 館内見学ツアー等

びわ湖ホールや舞台芸術への興味、関心を高め観客創造に資するため、好評の「まるっとステージツアー」を引き続き実施するほか、舞台芸術に関する雑誌、図書、CD、ビデオ等を備えた舞台芸術情報サロンの運営やホールグッズの販売等を行う。

さらに、自主公演時の託児サービス等を実施する等、来館者サービスの充実に努める。

カ. びわ湖ホール舞台芸術基金の周知と活用

びわ湖ホール舞台芸術基金の周知に努めるとともに、オンラインによる手軽な寄付システムの運用を通じて寄付拡大に努める。また、寄付を活用した事業展開を図る。

(3) 施設の提供

びわ湖ホール施設の提供にあたっては、利用者（主催者、出演者等）の視点に立って、例えば企業の周年行事にびわ湖ホール声楽アンサンブルの演奏付きのパック料金を提案するなど、使いやすく親しめる貸館業務に取り組んでいく。

大中小の各ホールのほか、リハーサル室、練習室、研修室およびホワイエについても

活用促進を図るとともに、幅広いジャンルにわたって多くの方々に利用していただき、主催者をはじめ、来場者にも満足していただけるよう万全の対応に努める。

また、県規則改正により中・小ホールでの会議目的等の利用受付が6か月前から1年前となったことから、自主事業との調整を密にし、効率的な利用受付に努め、貸館可能日の一層の増加を図るとともに、利用者には継続して利用いただけるよう、サービスの向上に努める。

なお、2019年度においては、大・中ホールの舞台機構の改修により大・中ホールが長期間利用休止（2019年8月19日～12月20日）となり、過去施設利用者を含め広く周知を図っているところであるが、開館日への利用調整を行うなど影響が最小限となるように努める。

（4）管理運営

施設の適正な管理を行うことで、施設の日々の安全な運用ができ、長寿命化にも資するとともに、びわ湖ホールとしての質の高いサービスの提供を行う。

また、施設が老朽化する中で、利用者ニーズに合わせた効果的な改修ができるように県に要望し、安全・安心な施設管理に努める。

なお、来場者から要望の強いトイレの改修について、大・中ホールの舞台機構の改修に合わせ、和式トイレの洋式化・温水洗浄便座化等、快適性を確保する改修を行う。

ア．ホール管理運営

施設の維持管理を適正に行うとともに、公演開催に伴うチケット販売業務、総合案内業務、舞台技術業務およびレセプション業務等について、びわ湖ホールにふさわしい質の高いサービスを提供する。

災害時の緊急対応について、「滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールおよびびわ湖ホール駐車場災害時の緊急対応要領」をホール職員に徹底、消防訓練を実施し、非常時の対応に生かしていくとともに、日常の施設・設備管理で危険箇所が発見された場合は、速やかな改修に努める。

なお、2019年度、大・中ホールの舞台機構の改修が県執行で実施されるにあたり、安全に支障なく工期内完了となるよう協力する。

イ．舞台技術運営

（ア）舞台設備および備品管理運営

舞台設備の日常点検および管理を適正に行うとともに、施設利用者の使いやすい環境を提供する。

（イ）技術的専門性の向上

びわ湖ホールの機能を十分に活用し、創造性を発揮した舞台技術を提供できるよう高度な技術力の確保に努める。また、他の劇場との情報交換や調査研究を通して、技術的専門性の向上を目指す。

(ウ) 舞台監督、プランナーの活用

自主事業では舞台監督、プランナー、チーフオペレーターなどを職員で担当し、事業費の削減に努める。貸館事業では要望があれば舞台監督、プランナーを担当し、オペレーターの増員はできるだけ職員を配置することで経費節減に努める。

(エ) 人材育成

「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」の趣旨に沿った取り組みとして、職員の資質の向上を図るために、「舞台技術研修」を実施する。また、他の劇場や近隣の舞台芸術系大学等との連携を図りながら地域の人材育成に努める。

(オ) 安全管理

「びわ湖ホール劇場技術運営マニュアル」に則り、舞台の安全な管理運営に努める。

ウ. 駐車場管理運営

駐車場の維持管理を適正に行うとともに、ホール来館者をはじめ多くの方々が利用しやすい運営を行う。2018年1月から24時間入出庫可能になったことをさらにPRして、月極利用の利用促進に努める。また、駐車場利用の促進と利用者サービスの向上を目的とした駐車場利用の最大料金設定については、引き続き県と連携して検討していく。

3 滋賀県立文化産業交流会館

(1) 自主事業

ア. 2019年度自主事業

滋賀県文化振興基本方針を具現化するため、びわ湖ホールと連携のもと、2館の役割を明確にしながら各種事業に取り組む。特に、公演制作事業では、互いが蓄積してきたノウハウを共有し職員のスキルアップを図る。

また、人材養成・普及啓発事業では、これまで2館が養成・支援してきた実演家等が双方の事業に積極的に関わることで、県域で様々な事業を展開する。

(ア) 公演制作

「長栄座」事業は、文化庁「劇場・音楽堂等機能強化推進事業」など、外部からの助成金を活用し、舞台芸術アドバイザー等専門家の監修による邦楽・邦舞の自主制作公演を行う。2019年度も、引き続き邦楽と邦舞のそれぞれに企画・演出家を置き、より質の高い、親しみやすい作品を制作する。

(イ) 人材養成

子どもや若者が、互いを認め合いコミュニケーション能力を身につけながら、舞台創作活動に参加する「滋賀県次世代育成ユースシアター事業」は、舞台芸術を通じた健全な文化活動者の育成と交流により文化芸術の向上を図る。2019年

度からは、本事業の脚本を手がけられる人材の発掘・育成を目指す「戯曲講座」を新たに開設する。演出等スタッフには地元の劇団員、文化活動者が参画することで、県民が主体となって創作する公演とする。

また、邦楽・邦舞の専門集団「しゅはり」を中心に、「長栄座」事業に出演する若手演奏家・舞踊家の募集と育成を行う。

さらに、企画制作のノウハウとスキルアップを学びながら実践する場として、第一線で活躍する講師を招き開催する「アートマネジメント人材養成講座」では、びわ湖ホール舞台技術職員による講座を実施する。

(ウ) 普及啓発

県内小中学校・特別支援学校へ演奏家等を派遣する「アートのじかん」や子どもたちに古典芸能に興味を持ってもらうための「古典芸能キッズワークショップ」を行う。また、キッズワークショップの箏部門を修了した子どもたちを対象に、演奏技術の向上を図るジュニアコースを新たに開設する。

さらに、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、日本の伝統芸能の普及を目的とした「(仮称)親子で楽しむ日本の伝統芸能」やプロと地域で活動する人形劇団による「人形劇フェスティバル」を開催する。

このほか、米原市の小学生および住民等に本格的なオペラをお楽しみいただくため、びわ湖ホール声楽アンサンブルによる子ども向けオペラ『泣いた赤鬼』を上演する。

(エ) 協働連携

県内の文化団体・個人等から企画を募集し、お互いがこれまで培ってきた経験やノウハウを共有し協働することで、さらにスキルアップを目指す「県民協働企画事業」により、文化活動の活性化と人的ネットワークを拓ける。

(オ) 鑑賞事業

県民の皆様の日常生活に潤いをもたらす、文化芸術活動を活性化するために、多彩な鑑賞の機会を提供するポップスコンサートを開催する。

また、びわ湖ホールを中心に県内一円で開催される「近江の春 びわ湖クラシック音楽祭」の米原公演をイベントホールで開催する。

(カ) 産業振興事業

産業分野との連携により、SOHO入居者や起業家によるセミナー、情報交換・交流を図る「ビジネスカフェ in 文化産業交流会館」およびホール事業に併せて「近江のあたらしい伝統産業展」を実施する。

(2) 広報

ア. 広報営業

情報誌「湖響」への記事掲載や新聞への寄稿、ホームページおよびSNSによる発信、新聞・放送局へのプレスリリース、新聞・雑誌・情報誌・テレビ・ラジオ等による広報を行うほか、対象となる購買層に応じ、ダイレクトメールやメールマガジンな

ど情報配信のツールを活用して積極的な広報活動を実施する。

また、協賛支援を確保するための営業活動にも努める。情報提供として施設利用促進と公演チケットの販売促進の両面を考慮し、情報誌の作成、ホームページの随時更新およびSNSによる発信、新聞・放送局へのプレスリリースや新聞・雑誌・情報誌・テレビ・ラジオ等への広告などを行うほか、広報対象に応じたダイレクトメールやメールマガジンなど情報配信による積極的な広報活動を実施する。

イ. チケット販売

インターネットによるチケット販売をはじめ、団体販売やこれまでに蓄積した顧客リスト等を活用しながら、効果的な販売活動を行い、顧客の拡大に努めるとともに、連続公演の割引制度やクレジットカード決済の導入などサービスの向上に取り組む。

また、組織統合を機にびわ湖ホールチケットセンターへの委託販売、専用のチラシラックの設置、ダイレクトメールの一括発送等を行っており、今後も2館で協力しながらチケットの販売促進に努める。

ウ. 施設利用促進

一層のPR活動による新規顧客の開拓やリピーターの確保等、施設の利用の促進を図る。

また、定期的に会館内で「施設利用促進会議」を開催し、新たな施設利用の活性化についての調査や研究を行い貸館対応に生かす。

エ. Eメール会員

新たな顧客の拡大やチケットの販路開拓のため、定期的に会員に向けた情報の提供やチケットの割引サービス等に努める。

(3) 施設の提供

多様な方々が利用する公共施設としてユニバーサルデザインの視点に立ち、利用者の安全確保を最優先として、人に優しく環境に配慮した効率的で公平・公正な管理業務を行う。利用団体や貸館利用者へのアンケートによる満足度調査、ご意見箱の設置、さらに対話により、利用者の意見・要望を把握し、業務改善に努める。

また、SOHO施設を提供するとともに、各種産業フェアや商品展示会を誘致するなど、イベントホールの稼働率の向上に努める。

(4) 管理運営

効率的な施設運営に努めるとともに、法令に基づいた適正で安全な管理と質の高いサービスの提供を行う。

また、施設が老朽化する中で、利用者ニーズに合わせた効果的な改修ができるように県に要望し、安全・安心な施設管理に努める。

ア. 会館管理運営

舞台技術、施設管理面で経験豊かな人材を配置し、文化施設としての機能はもとより産業展示等にも対応したフレキシブルな管理と技術提供を行う。会館の利用者には、技術的側面から催事の進行を支援し、専門スタッフが要望に応じた細やかな舞台技術を提供する。

災害発生時または発生のおそれがある場合には、防災体制をとり、関係機関への情報提供と協力依頼を行い、利用者のパニックを防止する。会館は、県地域防災計画における広域陸上輸送拠点に指定されていることから大規模災害発生時には、県や米原市との連携を図りながら対応する。

消防訓練は、年2回実施し、消防設備の取り扱いや通報、避難誘導が的確に実施できるよう職員教育を行う。

イ. 人材育成

職員の意識改革と資質の向上を図ることを目的に、びわ湖ホールと連携しながら職場研修、自己啓発研修、職場外研修の3つの視点から職場研修を継続的かつ発展的に実施する。

さらに、舞台技術の研修や、公益法人に関する実務研修、会計研修等に参加し、専門的知識の習得に努める。

ウ. 証紙印紙の販売

来場者のニーズに応じた切手、はがき、証紙、印紙の販売を行う。

平成31年(2019年)度自主事業等一覧

(法人本部地域創造部)

(1) 自主事業

人材養成

●第38回滋賀県ピアノコンクール

予選

12月15日(日) 21日(土) 22日(日)

本選

2020年2月16日(日)

日頃からピアノ演奏に励む滋賀県在住、在学の児童生徒から一般(30歳未満)まで部門別にコンクールを実施します。これまでに県内外で活躍するピアニストを多く輩出している伝統のあるコンクールです。

部 門：小学低学年部門、小学中学年部門、小学高学年部門、中学生部門、高校生部門、学生・一般部門(6部門)

会 場：草津アマカホール(予選)
野洲文化ホール(本選)

●湖国新進アーティストによる演奏会「ザ・ファーストリサイタル」

オーディション

9月

リサイタル

2020年3月14日(土)

滋賀県在住、在学、在勤または出身の新進演奏家を対象にオーディションを実施し、優れた演奏家に今後の活躍を願って初めてのリサイタルの機会を提供します。本県の素晴らしい演奏家を広く県内外に紹介し、今後演奏家として活動できるよう支援します。

部 門：器楽(ピアノ、管楽器、弦楽器、打楽器の独奏)、または声楽(独唱)

会 場：オーディション/滋賀県立文化産業交流会館 小劇場
リサイタル/滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 小ホール

●種をまくプロジェクト2019 びわ湖・滋賀の風景展

8月～10月

滋賀県の豊かな風景を再発見し、次代に伝えたい景観や人々の営みを描く全国公募の美術展を開催します。「表現することの楽しさを子どもたちへと繋いでいきたい。」との願いから、展覧会に先立って小・中学生を対象に身近な風景を描くワークショップを実施します。

部 門：小・中学生、高校生、一般

ワークショップ：大津市・長浜市・近江八幡市・甲賀市・高島市の各市で夏休み期間中に開催

講師 アクリル画家・小多譲仁(予定)

会場および会期：ビバシティホール 10月10日(木)～17日(木) ※15日(火)休館
しがぎんホール 10月22日(火・祝)～28日(月)

●びわ湖芸術文化茶論(サツ)(年4回)

日程調整中

県内で地域に根ざした文化芸術活動を行う方々が集い、様々な分野で活躍するゲストを迎えたトークセッションを開催します。文化活動者のネットワーク構築を図り、その活動を支援するとともに、びわ湖ホール主催事業をはじめ、当財団事業の今後につながる機会とします。

会場：びわ湖ホール研修室

普及啓発

<近江の春 びわ湖クラシック音楽祭 2019 地域公演>

県民の皆様誰もが気軽に音楽を楽しめるよう、優れた音楽家の演奏を低料金で提供する「近江の春 びわ湖クラシック音楽祭」を地域の文化ホール等と連携して開催します。

●室内楽公演

4月13日(土)・14日(日)

春の音楽祭を地域に広げ、音楽に親しんでいただけるよう、音楽祭出演の演奏者によるコンサートを高島市の文化施設やあいこうか市民ホールと連携して開催します。

- ・湖(うみ)をわたる弦楽の調べ 4月13日(土)
出演：S o L a [木下知子(ヴァイオリン)、五十嵐美果(ヴィオラ)]
会場：ヴォーリズ今津郵便局
- ・展示室サロンコンサート 花薫る春のコンサート 4月14日(日)
共催：甲賀市教育委員会
出演：第1部 中西恵子(ソプラノ)
第2部 S o L a [木下知子(ヴァイオリン)、五十嵐美果(ヴィオラ)]
会場：甲賀市あいこうか市民ホール 展示室

●おうみ民話ものがたり&日本のうた (共催：米原市、ルッチプラザ) 4月20日(土)

近江の民話をもとに作曲した楽曲や日本歌曲をびわ湖ホール声楽アンサンブル等が演奏。親子から年配の方まで楽しんでいただけるコンサートを開催します。

出演：びわ湖ホール声楽アンサンブル、脇阪法子(ソプラノ)、榎山さやか(ピアノ)、吉延佑里子(フルート)
会場：米原市民交流プラザ(ルッチプラザ)

●びわ湖ホール声楽アンサンブル東近江公演 (共催：八日市文化芸術会館)

4月21日(日)

春の音楽祭を地域に広げ、音楽に親しんでいただけるよう、びわ湖ホール声楽アンサンブルによるコンサートを県内ホールと連携し実施します。

出演：びわ湖ホール声楽アンサンブル
会場：東近江市立八日市文化芸術会館

<近江の春 びわ湖クラシック音楽祭 2019>

●あつまれ!キッズ・ワークショップ 2019

4月27日(土)・28日(日)

「近江の春 びわ湖クラシック音楽祭」の事業として、弦楽コンサートや楽器体験など、音楽を中心とした子ども向けの体験プログラムを行います。

プログラム：合唱、ドラム、カリンバ、タンバリン ほか
会場：ピアザ淡海 会議室

●遊覧船ミシガン公演

4月26日(金)

「近江の春 びわ湖クラシック音楽祭」の前夜を彩る湖上公演を開催します。

出演：びわ湖ホール 3/4 大テノール
会場：琵琶湖汽船ミシガン船上

●びわ湖ホール、文化産業交流会館との普及啓発事業

通年

びわ湖ホールおよび文化産業交流会館と連携し、学校、文化ホールをはじめ、医療・福祉施設において、文化芸術に親しんでいただく機会を広げていきます。

- ①びわ湖ホール声楽アンサンブル 学校巡回公演 (びわ湖ホール)

- ②びわ湖ホール声楽アンサンブル ふれあい音楽教室（びわ湖ホール）
- ③びわ湖ホール声楽アンサンブル オペラ『泣いた赤鬼』（びわ湖ホール）
- ④ホスピタルコンサート（びわ湖ホール）
- ⑤アートのじかん（文化産業交流会館）

協働連携

● 文化・経済アートステージ 2019 初夏の庭園コンサート 6月9日（日）

本県の文化と経済の発展を目的に様々な活動に取り組む「文化・経済フォーラム滋賀」と、企業、演奏家、地域の方との出会いや交流の場をつくるコンサートを開催します。
会場：花文造園土木(株) 苑友會館

● 滋賀県アートコラボレーション事業（自主企画・コミュニティ育成）6月～2020年3月

県内の文化ホール、アートNPO等の文化団体、文化活動者から提案を募集し、採択した事業を、提案者と協働連携し、地域のネットワーク構築と、地域の文化活動拠点である文化ホールの活性化を目指して事業展開します。

【自主企画部門 10事業（予定）】

① 能装束着付実演と能「猩々」 6月18日（火）

提案団体：滋賀能楽文化を育てる会
会場：能登川コミュニティセンター

② （仮題）「小さな図書館」「Galleryかくとだに」から 6月

提案団体：（公財）伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団
会場：伊吹葉草の里文化センター

③ ～滋賀県若手演劇人育成事業～ 舞台「湖国シェイクスピア」 8月3日（土）・4日（日）

提案団体：長浜文化芸術ユース会議
会場：長浜文化芸術会館

④ 第11回オーケストラ・ムジカ・チェレステ演奏会 8月4日（日）

提案団体：日野町文化振興事業団
会場：日野町町民会館わたむきホール虹

⑤ BLACK BOTTOM BRASS BAND LIVE in 彦根 12月7日（土）

提案団体：みずほ文化センター
会場：みずほ文化センター

⑥ 関西フィルハーモニーストリングアンサンブル ニューイヤーコンサート 2020年1月19日（日）

提案団体：甲賀市あいこうか市民ホール
会場：甲賀市あいこうか市民ホール

⑦ エンジョイ・ザ・クラシック ロマン派音楽の世界 2020年1月26日（日）

提案団体：米原市民交流プラザ（ルッチプラザ）
会場：ルッチプラザ ベルホール 310

⑧ オオサカ・シオン・ウインドオーケストラ吹奏楽コンサート 2020年1月

提案団体：東近江市立八日市文化芸術会館
会場：東近江市立八日市文化芸術会館

⑨ 能楽大連吟 ～近江 DE 謡隊～ 2020年2月2日(日)
提案団体：能楽大連吟～近江 DE 謡隊～実行委員会
会場：野洲文化ホール

⑩ 大人の部活プロジェクト 高島ジャズオーケストラ部育成事業
ひなまつり Jazz Concert 2020年3月1日(日)
提案団体：藤樹の里文化芸術会館
会場：藤樹の里文化芸術会館

【コミュニティ育成部門 3事業】

① 愛荘むら芝居「おやじと孫太郎」 9月29日(日)
提案団体：(一社)愛荘町文化協会
会場：ハーティーセンター秦荘

② おおわらい狂言教室 10月(予定)
提案団体：藤樹の里文化芸術会館
会場：藤樹の里文化芸術会館

③ KEION Summer Camp Live 2019 8月26日(月)・27日(火)
提案団体：青少年軽音リーダー育成実行委員会
会場：滋賀県希望が丘文化公園

●滋賀県アートコラボレーション事業
滋賀県文化賞受賞者によるコンサート 9月～11月(予定)

コンサートの協働制作事業。市町ホール等の活性化と県内の文化ホールとのネットワーク構築を目的に、滋賀県文化賞(文化奨励賞、次世代文化賞含む)受賞者によるコンサートを開催します。
会場：甲賀市あいの土山文化ホール、しがぎんホール

●滋賀県アートコラボレーション事業
おうみ狂言図鑑 2020年2月～3月

狂言の協働制作事業。市町ホール等の活性化と県内の文化ホールとのネットワーク構築を目的に、滋賀を題材にした創作狂言や古典作品を上演します。

出演：茂山千五郎家

会場：滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 小ホール 2020年2月22日(土)

日野町町民会館わたむきホール虹 2020年3月1日(日)

東近江市てんびんの里文化学習センター 2020年3月7日(土)

長浜市内の文化ホール(会場調整中) 2020年3月28日(土)

●アート活動支援事業 通年

県内の文化団体等と協働して、地域のアート活動を支え、アートによる地域活性化を目指します。

(支援予定事業)

- ・けいおんストリート Live
- ・ルシオールアートキッズフェスティバル
- ・糸賀一雄記念賞音楽祭
- ・滋賀県次世代文化芸術センターの「連携授業・文化芸術体験プログラム」ほか

情報提供

●「滋賀文化のススメ」管理運営

通 年

文化、歴史、伝統、生活など滋賀の魅力ある文化遺産や県内の文化情報を発信する滋賀県のウェブサイト「滋賀文化のススメ」の管理運営を行います。

●自主事業総合 PR

通 年

各種事業の広報やホームページの維持管理、SNS での発信、公演パンフレット（年間）の作成などを行います。

(2) 受託事業

●第 49 回滋賀県芸術文化祭

8 月下旬～12 月 31 日（会期調整中）

県民の皆様の文化芸術活動を広く紹介し、公演および創作発表を奨励するため、滋賀県芸術文化祭への参加事業を募ります。併せて、「東京 2020 オリンピック・パラリンピック」の機運を醸成するため、beyond2020 の登録や応援プログラムを推奨します。

また、県民の皆様の美術、写真、文芸の各分野の創作活動における発表および鑑賞の場として 3 つの公募展を開催します。

さらに、芸術文化祭の開催時期にあわせて、県内文化団体等の活動紹介や親子で体験できるワークショップを実施します。

- ① 芸術文化祭参加事業
- ② 主催事業

第 58 回滋賀県写真展覧会 開催期間：9 月 15 日(日)～9 月 22 日(日)※16 日休館
会 場：草津市立草津クリアホール

第 73 回滋賀県美術展覧会 開催期間：11 月 14 日(木)～11 月 20 日(水)※18 日休館
会 場：滋賀県立文化産業交流会館

第 69 回滋賀県文学祭 開催期間：11 月 24 日(日)
会 場：滋賀県立男女共同参画センタ

●県内文化情報提供事業

通 年

県内各地の文化施設等で行われる各種の文化情報や滋賀の歴史、風土、自然、文化芸術等の特色ある文化情報を発信します。

- ① 湖国文化情報『れいかる』編集・発行

県内で行われる各分野の文化芸術情報を県民の皆様にお届けします。

発行日 隔月（6 月 1 日、8 月 1 日、10 月 1 日、12 月 1 日、2 月 1 日、3 月 31 日
：年 6 回発行）

発行部数 1 回 30,000 部

- ② 総合文化誌『湖国と文化』提供

季刊誌『湖国と文化』を県内外の図書館や教育機関等に配本し、滋賀の文化の魅力を発信します。

発行日 季刊（7 月 1 日、10 月 1 日、1 月 1 日、4 月 1 日）

配本数 1 回 430 冊

●文化プログラムフェスティバル事業

2020 年 2 月 15 日（予定）

「東京オリンピック・パラリンピック」に向けて、様々な団体と協働しながら、滋賀の特色ある文化の発信と、これからの滋賀の文化を担う若手芸術家等の発表の機会を設け、育成・支援を図ります。

会場：滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

●「美の滋賀」拠点形成フェア開催事業

秋頃

親子で気軽に体験できるワークショップなどのプログラムを集めた「アートフェスティバル」を実施します。

会場：近江八幡市（予定）

(3) 独自事業

●総合文化誌『湖国と文化』の編集・発行

通 年

『湖国と文化』は、昭和 52 年（1997 年）創刊の滋賀の魅力ある文化を発信する季刊誌で、史跡や人物、自然、伝統行事、文化芸術など多彩な話題を満載しています。

県内主要書店を中心に、文化施設や観光施設で販売するほか、ホームページに『湖国と文化』バックナンバーのタイトル、著作者、地域等が検索できるサイトを設けています。

発行日 季刊（7 月 1 日、10 月 1 日、1 月 1 日、4 月 1 日）

発行部数 1 回 3,000 冊

●文化・経済フォーラム滋賀

通 年

平成 23 年 2 月「文化で滋賀を元気に！」を合言葉に多様な分野で活躍している者が一体となって発足した「文化・経済フォーラム滋賀」は、文化と様々な分野が連携した創造的な活動が広がるよう各種事業を実施します。

事業：文化で滋賀を元気に！賞

文化で滋賀を元気に！シンポジウム

総会・講演会 ほか

2019年度 自主事業カレンダー

※共催予定事業を含む。

	大ホール	中ホール	小ホール
4月	近江の春 びわ湖クラシック音楽祭2019 4/27(土)・4/28(日)		
5月	28(火)～31(金)音楽会へ出かけよう!		
6月	3(月)・4(火)音楽会へ出かけよう! 8(土)<共催>関西フィルハーモニー管弦楽団定期公演 18(火)<共催>ポロニーヤ歌劇場『リゴレット』	16(日)<共催>平和堂財団 鳩の音楽会 30(日)田中正也×佐藤卓史ウルトラ・ピアノデュオ	29(土)<大人の楽しみ方>G.O.B(オカリナ七重奏)
7月	7(日)<共催>日本センチュリー交響楽団定期公演 13(土)エイフマン・バレエ『アンナ・カレーニナ』 27(土)・28(日)オペラ夏の祭典『トゥーランドット』	6(土)新国立劇場ダンス 森山開次『NINJA』 24(水)松竹大歌舞伎	6(土)スタインウェイ ピノシリーズ vol.6 14(日)<室内楽への招待>エペーヌ四重奏団
8月	5(月)～7(水)沼尻竜典オペラ指揮者セミナーV	10(土)子供のためのシェイクスピア『じゃじゃ馬ならし』	22(木)・23(金)イタリア声楽曲研修Ⅱ 28(木)<気軽にクラシック>二塚直紀 7(土)<大人の楽しみ方>タブラトゥーラ
9月	びわ湖大津 秋の音楽祭 9月中旬～11月初旬(調整中) *対象事業		
10月			* 14(土) 声楽アンサンブル第69回定期公演 * 23(月・祝)<気軽にクラシック>シューベルト「ます」を聴く
11月			* 13(日) アンサンブルの楽しみ～演奏家のついで～ vol.11 * 19(土)<びわ湖の午後>鈴木秀美vol.1 * 26(土)<びわ湖の午後>鈴木秀美vol.2 2(土)<気軽にクラシック>岩谷祐之 16(土)<びわ湖の午後>福間洸太郎
12月	21(土)<共催>KEIBUN第九2019 31(月) ジルヴェスター・コンサート2019-2020		7(土)<リング完結企画>白石光隆コンサート 16(月)<気軽にクラシック>高見信行
1月	5(日)IL DEVU&びわ湖ホール四大テノール 26日(日)<共催>平和堂財団ガラコンサート	10(金)～13(月・祝)オペラへの招待『こうもり』 18(土)二兎社「私たちは何も知らない」 25(土)山海塾	5(日)カルテット・エクスプローチェ 19日(日)<古楽への招待>高本一郎
2月	2日(日)<名曲コンサート>日本センチュリー交響楽団 11(火・祝)アリーナ・ゴジカル ドリーム・プロジェクト2020		
3月	7(土)・8(日) プロデュースオペラ『神々の黄昏』 22(日) 子どものための管弦楽教室 第16回	14(土)舞台技術研修成果発表「長靴をはいた猫」 21(土) 野村万作・野村萬斎狂言公演	28(土) 声楽アンサンブル第70回定期公演

その他	<p>5月 学校巡回公演(県内各学校10公演)</p> <p>地域連携公演オペラ『泣いた赤鬼』(県内12公演程度)11月～12月実施予定</p> <p>文化庁 文化芸術による子供の育成事業 オペラ『泣いた赤鬼』(県外10公演程度)10月～11月実施予定</p> <p>ロビーコンサート(通常開催+8～12月は公演回数増)</p> <p>その他、オペラ講座(初級編・上級編)・トライアングル講座、ふれあい音楽教室</p> <p>9/16(月・祝) 声楽アンサンブル東京公演Vol11</p> <p>3月 舞台技術研修～人材育成講座～(3/9(月)～14(土)※3/14成果発表公演)など</p>
-----	--

平成31年(2019年)度自主事業一覧

(文化産業交流会館)

公演制作

●滋賀県次世代創造発信事業芝居小屋「長栄座」新春公演

①(仮称)音楽巡礼～和楽器と歌でめぐる湖国滋賀 2020年1月18日(土)

②(仮称)新春を祝う古典芸能バラエティー 芸能ア・ラ・カ・ル・ト 2020年1月19日(日)

イベントホール内に仮設する芝居小屋において自主制作公演を行います。全国的にレベルの高い演奏家、舞踊家の出演による歴史や民話など地元資源を活用した邦楽・邦舞をはじめとする古典芸能の創作演目を上演します。

人材養成

●滋賀県次世代創造発信事業 邦楽・邦舞専門実演家養成事業 7月～2020年2月

若手の演奏家を対象に公募し、邦楽・邦舞の研鑽の機会を提供します。長栄座公演等様々な演奏活動に参加し、修了後は邦楽邦舞専門集団「しゅはり」へ登録し活動を行います。

●滋賀県次世代創造発信事業 アートマネジメント人材養成講座 10月～2020年2月

地域において舞台芸術を企画制作できる人材を養成する講座です。滋賀県立大学と合同で開催し、企画・制作・広報等を学びながら実際にアウトリーチまで行います。また、舞台技術に関する講座を設け、びわ湖ホールの舞台技術職員が講師を務めます。

●滋賀県次世代育成ユースシアター事業(上演作品未定) 8月～12月

子ども・若者を中心とした県民参加による演劇公演を行います。制作・演出スタッフに地元演劇活動者が中心となって取り組みます。また、関連企画として、脚本家を育成するための「戯曲講座」を開設します。

普及啓発

●滋賀県次世代創造発信事業 古典芸能キッズワークショップ 9月～2020年2月

日本の古典芸能の世界を身近に感じ、その楽しさに触れることのできる子ども向けの箏と日本舞踊のワークショップと成果発表会を行います。

●(仮称)滋賀県次世代創造発信事業 箏曲ジュニアアンサンブル 9月～2020年2月

古典芸能キッズワークショップで特に参加希望の多い箏部門の上級コースとして、体験ワークショップを超えた高度な技術が習得でき、アンサンブル演奏等で日本音楽の魅力を発信できる人材を養成します。

●滋賀県次世代創造発信事業 アートのじかん **10月～2020年2月**

文化施設、芸術家と学校等を結び、子どもたちに文化芸術に触れる感動や楽しさを伝えるため、県内の小・中学校、特別支援学校を中心に音楽分野の文化芸術体験プログラムを実施します。

●びわ湖ホール声楽アンサンブル 子ども向けオペラ『泣いた赤鬼』米原公演
12月3日(火)

米原市内の小学生および地域住民等を対象に身近なホールで本格的なオペラを鑑賞する機会を提供します。

●フィールドアート Media Mix 2020 **2020年1月26日(日)**

イベントホールの特性とデジタルアートを駆使したマーチングバンドの祭典を開催します。県内外の学校吹奏楽部から一般のマーチングバンドまで多数出演します。

協働連携

●親子で楽しむ日本の伝統芸能 **7月15日(月・祝)**

小学生やその家族を対象に夏休みに日本舞踊、箏曲、狂言、落語のワークショップや公演を通して日本の伝統芸能に触れる機会を提供します。

●ぶんさん人形劇フェスティバル **2020年3月8日(日)**

親子で人形劇に親しむ機会を提供するとともに、プロの人形劇団と地元の人形劇グループの交流の場とします。

●(仮称)びわ湖ホール声楽アンサンブル@文化産業交流会館 **未定**

湖北地域にお住まいの方々にもびわ湖ホール声楽アンサンブルのコンサートをお楽しみいただきます。

●県民協働企画事業① Salon de Musique—音楽とトークとスイーツと— **7月28日(日)**

親しみやすいフランス音楽とトーク、休憩時にはロビーでフランス菓子を楽しむおしゃれで気楽なコンサートです。

●県民協働企画事業②(仮称)大阪コンサートブラス テンピース公演 **9月14日(土)**

関西で活動する英国式金管バンド「大阪コンサートブラス」のテンピース編成によるコンサート。中学・高校生の吹奏楽部を対象にした講習会や合同演奏も行います。

●県民協働企画事業③(仮称)Okamoto Island ライブ&セミナー

2020年2月11日(火・祝)

Okamoto Island のライブ演奏と音楽セミナー。関連企画として、公開リハーサルや県内高等学校軽音楽部へのクリニックを行います。

鑑賞事業

●近江の春 びわ湖クラシック音楽祭 2018 米原公演 競演 音楽の環 びわ湖ホール四大テノール&男声フォレスタ vol.3 4月29日(月・祝)

「近江の春 びわ湖クラシック音楽祭」の米原公演として、イベントホールでびわ湖ホール四大テノールとテレビ等で人気の高いフォレスタ（男声4人）によるジョイントコンサートを開催します。

●家入レオコンサート 7th LIVE Tour 2019 6月9日(日)

15歳の時に「サブリーナ」を完成させ、2012年メジャーデビュー。第54回日本レコード大賞最優秀新人賞他数多くの新人賞を受賞、以降数多くのドラマ主題歌やCMソングなどを担当する家入レオのデビュー7周年の全国ツアーのコンサートを開催します。

●ベリーグッドマン “もっとてっぺんとるぞ宣言” ツアー2019 「i AM the BEST」 6月16日(日)

2016年にメジャーデビューした大阪出身の3人組ボーカルユニット。美しすぎるハーモニーとラップが世代を超えた共感と呼び、次世代を牽引するアーティストの呼び声が高いベリーグッドマンのコンサートを開催します。

●ポップスコンサート(2事業) 調整中

●「おとうさんといっしょ」レオてつコンサート(2回公演) 7月20日(土)

NHK BSプレミアムで放送中の人気番組「おとうさんといっしょ」でおなじみの「レオてつコンサート」を開催します。

産業振興

●ビジネス・カフェ in 文化産業交流会館(共催事業) 通年

(公財)滋賀県産業支援プラザと協働し、文化と産業の連携による地域振興の新たなスタイルを追求し、文化と産業を繋ぐコーディネーター人材の育成を目指します。

●近江のあたらしい伝統産業展 2020年1月18日(土)、19日(日)

長栄座事業の開催に合わせて、県内の伝統産業、地場産業等の企業・作家による展示販売を行います。

情報提供

●プレイガイド&アートインフォメーションコーナー 通年

情報紙、書籍等の閲覧、文化情報の提供、催し物チケットの販売のほか、県民からの文化芸術に関する企画、舞台技術等の相談業務を行います。

●自主事業総合PR 通年

事業の対象等に合わせた効果的、効率的な広報、閑散期および稼働率の低い施設の利用促進を図ります。びわ湖ホール発行の「湖響」に当館事業の紹介記事を掲載します。